係り受け

二つの文節が互いに意味の上で結びついているとき、「前の文節は後の文節に係る」、「後の文節は前の文節を受ける」、という。

（例）白い（修飾）→鳥が（主）　空を（修飾）→飛ぶ。（述）

主・述の関係や、修飾・被修飾の関係などの係り受けが対応していないと、不自然な文になる。また、係り受けの仕方が複数考えられる場合は、意味が複数に解釈できることがある。

（例）大きな→ネコの　絵（大きいのはネコ）
　　　大きな　ネコの　→絵（大きいのは絵）

体言・用言

●**体言**…主語の中心となる単語（名詞）。活用しない。

（例）鳥（体言（名詞））が／鳴く。

●**用言**…活用があり、単独で述語になることができる単語（動詞・形容詞・形容動詞）。

（例）花が／咲く（用言（動詞））。　花が／赤い（用言（形容詞））。　花が／きれいだ（用言（形容動詞））。

※名詞も述語になることがあるので注意。

連体修飾語・連用修飾語

修飾語は、何を修飾するかによって2種類に分けられる。

・**連体修飾語**…体言（名詞）を含む部分を修飾するもの。「何の」「どんな」などを表す。

（例）私は　赤い（修飾）→花を　買った。

・**連用修飾語**…用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む部分を修飾するもの。「何（だれ）に」「何（だれ）を」「いつ」「どこで」「どのように」などを表す。

（例）私は　赤い　花を（修飾）→買った。

確認テスト

(1) 次の文について、――線部を修飾している文節を全て選び、記号で答えなさい。

私は　先月、　友達と　京都に　行きました。

ア 私は　**イ** 先月　**ウ** 友達と　**エ** 京都に　〔　　〕

(2) 次の文について、①〜④の二つの文節がどのような関係になっているかをそれぞれ**ア**〜**ウ**から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

私の　兄は、　毎朝　新聞を　読む。

① 「私の」と「兄は」〔　　〕　② 「兄は」と「読む」〔　　〕

③ 「毎朝」と「新聞を」〔　　〕　④ 「新聞を」と「読む」〔　　〕

ア 主・述の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 直接の係り受けの関係はない

(3) 次の各文の――線部が、体言なら**ア**、用言なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① あれは私たちの学校だ。〔　　〕

② 公園のツツジが美しい。〔　　〕

③ 彼(かれ)はこの店で紅茶を飲む。〔　　〕

④ 強い雨も降りだした。〔　　〕

(4) 例に従って、次の各文の〰〰線部が修飾している文節に――線を引きなさい。

(例) 庭に　きれいな　花が　咲(さ)く。

① この　大きな　木は、　町の　シンボルです。

② しばらく　道を　歩くと、　駅に　着いた。

(5) 次の各文について、〰〰線部が連体修飾語なら**ア**、連用修飾語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 黒い犬がほえた。〔　　〕　② 外で犬がほえた。〔　　〕

③ とても楽しい話だ。〔　　〕　④ とても楽しい話だ。〔　　〕